

7月15日に発生し、アッラーの援助と指導者たちの毅然とした対応、そして尊厳ある市民の勇気によって阻止された不誠実極まりないクーデター未遂事件は、全世界に「宗教を利用した搾取」を知らしめることになりました。フェト*は、宗教を装った嘘や不正行為を通して拡大した搾取の構造です。あらゆる意味で物質的にも精神的にも、自分たちの利益のためにイスラームを手段として利用しています。反社会的なこの集団の指導者は、国家の未来を標的とし、その信仰世界と価値観を無視し、海外の勢力の利益のためなら自国の市民に発砲することすら躊躇せず、アッラーの宗教を利用して人々を欺いています。

本書は、信仰、崇拜、道徳に関するイスラームの原理をゆがめようとしたフェトの構造と言説を精査することで、宗教を利用した搾取に対する注意を促すことを目的としています。7月15日の夜は不屈の精神と勇気の夜であり、模範として人びとの心に深く刻み込まれました。私たち一人ひとりが自分の理性を働かせ、自分で判断するという責任を負っています。

*フェト、フェトフッラージュ、ギュレン運動とも称される



テロ組織による
宗教の悪用について：

フェトフッラージュ編



9784910474045



テロ組織による
宗教の悪用について：

フェトフッラージュ編



テロ組織による
宗教の悪用について：

フェトフツラージュ編





トルコ共和国宗務庁出版：1536

専門書：341

主幹

宗教出版本部

編集

宗教活動本部

印刷

Çağlayan A.Ş.

+90 232 274 22 15

第1版 アンカラ - 2018

監査委員会：18.10.2018/48

ISBN: 978-491-04-7404-5（日本語版）

2018-35-Y-0003-1536

認証番号：12931

© トルコ共和国宗務庁

問い合わせ先

宗教出版本部 外国語出版局

Dini Yayınlar Genel Müdürlüğü

Yabancı Dil ve Lehçelerde Yayınlar Daire Başkanlığı

Üniversiteler Mah. Dumlupınar Blv. No: 147/A 06800

Çankaya/Ankara/TÜRKİYE

Tel: +90 312 295 72 81

Fax: +90 312 284 72 88

E-mail: yabancidiller@diyanet.gov.tr

フェトの本質とは、
政治的・思想的・経済的な目的を
隠し持った「利害の輪」である。
宗教的な奉仕に関連した活動を行
っているかのように偽装していたが、
7月15日のクーデター未遂以後、
いわゆる「テロ組織」と同様の
危険な性質であることが明らかになった。

7月15日に発生し、アッラーの援助と指導者たちの毅然とした対応、そして尊厳ある市民の勇気によって阻止された不誠実極まりないクーデター未遂事件は、全世界に「宗教を利用した搾取」を知らしめることになりました。フェト（訳注：フェトフッラージュ、ギュレン運動とも称される）は、宗教を装った嘘や不正行為を通して拡大した搾取の構造です。あらゆる意味で物質的にも精神的にも、自分たちの利益のためにイスラームを手段として利用しています。反社会的なこの集団の指導者は、国家の未来を標的とし、その信仰世界と価値観を無視し、海外の勢力の利益のためなら自国の市民に発砲することすら躊躇せず、アッラーの宗教を利用して人々を欺きました。本書は、信仰、崇拝、道德に関するイスラームの原理をゆがめようとしたフェトの構造と言説を精査することで、宗教を利用した搾取に対する注意を促すことを目的としています。7月15日は、堅固さと勇敢さの夜として私たちに深い痕跡を残しました。それは学ぶべき教訓に満ちており、私たち一人ひとりが、自分の理性を働かせ、自分で判断するという責任を負っています。

宗教を利用した搾取とは

「搾取」とは、個人または集団の善意を悪用したり、乱用したりすることを意味します。宗教を利用した搾取とは、宗教を悪用し、宗教上の概念や価値観を装って人々を欺き、物質的な、あるいは精神的な利益を得ることを意味します。言い換えるなら、私利私欲のために宗教的な概念や価値を装って人を欺き、私利私欲のために宗教を利用することです。

歴史を振り返れば、宗教が人に与える影響を利用して様々な利益を得ようとした個人や集団は数多く存在しました。彼らは宗教家を名乗り、宗教を売りものにすることに何の躊躇もありませんでした。こうした個人や集団は、ある時はクルアーンの章句やハディースの意味をゆがめ、何の脈絡もなく引用したり、またある時は社会に向けて、自分たちの悪意を正当化するための誤った解釈を発信したりしました。その他、宗教それ自体を攻撃の対象とし、宗教上の概念を無力化することが目的の場合もありますが、これも宗教を利用した搾取の一例と言えるでしょう。

預言者 ﷺ の生前のマディーナで、預言者モスクに取って代わろうと建立されたマスジドなどは、これが発端となって噴出したムスリム同士の差別といった問題も含め、宗教を利用した搾取の典型的な例です。「マスジド・アル＝ディラール」と呼ばれたこの建造物について、クルアーンでは次のように説明されています。

「害と〔真理の〕拒否とをもたらし、信仰者たちのあいだを分かたつために、また以前にアッラーとその使徒に対して戦った者たちの控えの場とするためにマスジドを設けた者たちがある。彼らは、『ただ善のみを意図してのことです』と誓うだろう。しかしアッラーは、彼らが嘘つきであることを証言する」。¹ 全能のアッラーは預言者 ﷺ に、「決して〔礼拝のために〕そこに立つてはならない」²と警告し、こうしたことは終末の日にいたるまで何度でも起こりえるため、宗教の悪用や不穏な動きには常に注意を払う必要があるとも説いています。マスジド・アル＝ディラールを建立した人々に対する預言者 ﷺ の強い反応には、現代において宗教を悪用しようとする人々にどう対処するべきかが示されています。

イスラームの歴史において、宗教の悪用の構図は「ニファーク（偽善）」「ムナーフィク（偽善者）」といった概念、もしくは性質を持つものとして現れました。偽善的な行為をする者たちの頭領として知られたアブドゥッラー・イブン・ウバイイ・イブン・サルールと、彼に従った偽善者たちは、預言者 ﷺ に対するマディーナ住民の忠誠に亀裂を入れ、統治者になり替わろうという陰湿な計画を立てていました。

1 クルアーン2章208節

2 クルアーン9章108節



長年にわたり
慈愛のしもべを
自称してきた彼らが、
実際には
敵意のしもべであったことは、
今や誰もが知る事実だ。

服装、立ち居振る舞い、崇拜行為、話し方から歩き方まで、何もかも信仰者のように見せつつ、偽善者たちは自分たちの目的を達成するために騙し、嘘をつき、中傷し、裏切り、共同体の秘匿すべき話を敵方に漏らすなど、敵方と協力さえしていたのです。

偽善の行いはやがて預言者 ﷺ の殺害を企てるまでに至りました。住んでいる土地さえ交渉の問題に変えてしまい、政治的な壊滅をもくろむばかりか、信仰、



崇拜、道徳を墮落させるためなら流血沙汰さえも厭いませんでした。

国家とその統治者による正規の秩序を標的とすることで、団結と連帯の基礎を揺るがす武装反乱の運動は、私たちの預言者 ﷺ の時代以降も歴史を通してムスリム社会に存在し続けてきました。叛乱や無政府状態として知られるこの種の組織は、明らかに宗教に反しており、合法的ではありません。

自分たちのよこしまな目的を
達成するためなら、
あらゆる手段を正当化する。
人々の宗教的な感情や情熱を利用し、
ザカート、サダカ、
クルバンをかすめ取り、
子どもたちを連れ去る。
何より、私たちの宗教の基本にある
価値や概念を歪曲する集団を、
宗教コミュニティと
みなすことはできない。

過去と同じく現代においても、クルアーンだけではなくハディースの語りや、預言者の教友や歴史上の人物の生涯を例に、イスラームの価値や概念を悪用するご都合主義者に直面させられているのを忘れてはなりません。多くの個人やグループが、様々な名称を用いて出版や講演を行っています。彼らはイスラームについて語っているようにみえても、実際には自分たちの利益のために活動しています。こうした詐欺師たちは、自分たちはあくまでも人々を宗教に招いているだけだと主張します。しかし実際には、ムスリムたちの純粋な善意を搾取しているのです。イスラームの基本的な典拠、理性、論理とは矛盾する根拠のない詭弁や、物語、幻想、虚偽の見返りを約束して人々を欺き、お金や子ども、時間、ときに人生そのものさえ奪うのです。

宗教を利用した搾取は、現代ではムスリムのウンマ（共同体）としての連帯と団結とをおびやかす深刻な安全保障上の問題にもなっています。フェトフッラージュ、ダーイシュ、アル＝カーイダ、ボコ・ハラムといった、宗教を名乗り、イスラームの代表者であるかのような主張をもって不和を生じさせ、流血をもたらすテロ組織による最大の損害をこうむっているのはムスリム社会であり、私たち全体の団結と連帯、また私たちの未来や若者たちなのです。

フェトフッラージュ（FETO）は 宗教コミュニティか

フェトの本質とは、政治的・思想的・経済的な目的を隠し持った「利害の輪」です。宗教的な奉仕に関連した活動を行っているように偽装していましたが、7月15日のクーデター未遂以後は、いわゆる「テロ組織」と同様の危険な性質であることが明らかになりました。

フェトは、宗教的な同胞愛の原則に根差した善意の運動でもなければ、人々が学び、理解し、イスラームに沿って生きることの助けとなるよう尽力したり、ムスリム同士の団結や連帯感のために労力を注いだりする宗教コミュニティでもありません。自分たちのよこしまな目的を達成するためなら、あらゆる手段を正当化する組織です。人々の宗教的な感情や情熱を利用し、ザカート、サダカ、クルバンをかすめ取り、子どもたちを連れ去り、私たちの宗教の基本にある価値や概念を歪曲する集団を、宗教コミュニティとみなすことは決してできません。長年にわたり慈愛のしもべを自称してきた彼らが、実際には敵意のしもべであったことは、今や誰もが知る事実です。

フェトの構成員は宗教コミュニティの精神に反した活動を行い、自分たちの指導者であるフェトフッラー・ギュレンという邪悪な人物とその運動を聖なるものとみ

なしています。精神的に従属させられ、画一化された若者たちで構成された集団を「黄金の世代」「聖なる次世代」と呼び、人類を救う唯一のグループであると主張しています。彼らは、自分たちの究極の目標を達成するためにはどのような手段も正当化されると考えています。試験問題の盗難や不正入試、賄賂、名誉棄損、誹謗中傷、不当逮捕・勾留、怠慢捜査や無捜査、盗聴、恐喝、不法な監視行為や身辺調査など、彼らが犯した多くの違法かつ倫理に反する行為には枚挙にいとまがなく、彼が宗教コミュニティ／グループでないことを明確に示しています。フェトは秘匿された目的を実現するための隠然たる構造を有するテロ組織です。構成員たちは世界の終わりが近づくにつれて悪が増えると信じており、それを正すための特別な義務が課せられています。トルコでの彼らの目標は、あらゆる政府機関、特に高レベルの官僚機構、司法機関、警察や軍隊に徐々に浸透し、最終的にはトルコ共和国の政権運営を手にかけることでした。

この種の組織は、実際には新しくも、独創的でもなく、過去から現代にいたるまで、世界のさまざまな地域でフェトと同様の構造がみられました。これらがみな同様のヒエラルキー型の組織で、また外国勢力の支援を受けているなどの共通点があることは注目に値します。

信仰と
郷土愛に満ちた心を
前にして、
神聖なものを
破壊しようとした者は
恥辱と不名誉を
こうむった。



フェトフッラージュの指導者は 宗教家といえるか

フェトの首謀者は思想家でも、学者でもありません。しかし世界規模の勢力に支えられた一大事業の一部であるといえるでしょう。邪悪な集団に心血を注ぐ狂信的なこの人物は、組織のメンバーの信仰心や思想を管理するのに、かつて説教師をつとめたという恵まれた機会と立場の経歴を躊躇なく利用しました。



たとえクルアーンの章句やハディース、イスラームの伝統的な古典を引用しようと、実体としてはテロ組織の指導者であるギュレンを宗教学者あるいは宗教者とみなすことは不可能です。イスラーム学者とは、宗教はアッラーにのみ帰されるものと考え、誠実な意図をもって社会の模範かつ指導者として行動する人物のことです。イスラーム学者であれば嘘をつくこと、だますこと、陰謀を企てること、二面性を持つことと

いった、イスラームにおいて重大な罪（アル＝カバール）とされる不道德な態度や行動には近づくことさえしません。そうした人には、イスラームの教えや信仰の基本、崇拝のやり方などがゆがめられたり、悪用されたりするのは受け入れがたいことなのです。

しかし結論からいうと、この組織の指導者はそうした理想像からはかけ離れています。自分の売り込みに余念がなく、権力に情熱を傾け、謙遜の仮面で傲慢さを隠し、選民意識を持ち、自分は完全・完璧であるという病的な全能感を抱えています。自分はどんな出来事にも奇跡的な解決策をもたらせると信じており、私利私欲のためならいくつもの顔を使い分けることも厭わず、周囲の人々の献身と限りない自己犠牲を当然のものと考え、グループのメンバーを自分のコントロールの下に置き、考え方も感じ方も、組織の外の世界から隔離しようとしています。

首謀者の言葉遣いや言説は宗教的な表現であふれかえっています。そうした宗教的な用語を、組織にとって都合のよい搾取の手段として利用しているだけなのです。神秘主義者の宗教心からくる深遠な講話のように演出するのに、クルアーンの章句や預言者 ﷺ のハディースを悪用しています。外側だけを見れば立派そうでも、実際には正反対です。通常、宗教系グループの指導者たちは自分自身の知識や願望、神との私的な交流の他に、一般常識とウンマの価値観を信頼

することが求められます。しかしフェトの首謀者は、自分の支持者たちが神学を学ぶ人々のコミュニティ、宗教団体や宗派、とりわけクルアーンといった正統な典拠からイスラームという宗教の知識を得ることを大いに妨げてきました。また自立した探求心を持つ者を組織から排除してきたのです。

どのような基盤の上でフェトは発生したか

イスラーム諸国において、フェトや同様の組織が拡大した理由は数多く挙げられます。第一の理由は（近現代史上の）ある一時期に、宗教生活が抑圧され、宗教教育が停止されたことです。健全でバランスのとれた、透明性のある宗教教育が社会に存在しないと、精神的なニーズを満たせず、宗教的な知識の欠落に苦しむ人々が搾取されやすくなります。

トルコでは、堅実で信頼できる典拠に根差したイスラームを教えるイマーム・ハティプ学校や神学校を特に対象とした悪習慣もあってか、子どもたちに宗教的・道徳的教育を受けさせたい層がフェトや同様の組織に流されがちです。イスラームの信仰、崇拜、道徳の原則を、クルアーンとスンナに照らし全体として教えない限り、誤った宗教的アイデンティティが出現することは避けられません。

健全でバランスのとれた、
透明性のある宗教教育が
社会に存在しなければ、
精神的なニーズを満たせず
宗教的な知識の欠落に
苦しむ人々が
搾取されやすくなる。



若い世代に対し、シンプルでバランスのよいアフル・アル＝スンナの、洞察に満ち、きちんと方向づけられた理解を浸透させることができれば、預言者やマフディー（救世主）を騙る偽ものが容易に出現するようになります。

実際にフェトはそうした制約や不全性を好機ととらえ、宗教教育を経済的搾取の単なる手段に変えるために私立の教育機関と非政府系組織を設立しました。宗教的に見せかけた教育活動を権力と利益のネットワークにし、世俗的・政治的・経済的構造を確立し、何かにつけてそれを隠れみのにして悪事をはたらくのは許されざる犯罪です。フェトは、長年にわたり植民地主義が続いたテュルク系諸国やアフリカ諸国などにも広がり、影響力を獲得しました。

この地に蓄積され、
何百年ものあいだ
私たちの宗教生活を支えてきた
アナトリアの知恵を
守らねばならない。
イスラームの美德と
精神的な深みを進化させ、
団結、連帯、同胞愛においては
妥協することのないようにしよう。





フェトの組織構造について

フェトの組織構造は2つの部分で構成されています。分割されたこの構造は、善意の人々が、背景にある暗い側面ではなく、組織の無垢な表面をもって確実にだますことを目的としています。

「開かれた組織」の側面は、学校や私立の教育機関、幼稚園、各種協会、財団法人、国内外の営利企業、報道機関など、外部からは合法と思われる構造で構成されています。これらの構造において、組織は「奉仕運動」を自称に、背信行為の指導者たちは「オピニオン・リーダー」と称されています。社会に対する組織の表向きの顔は、首謀者の教義に心酔する人々を育て、人的資源を獲得するはたらきをしています。彼らの主な目的は、権力と欺瞞、強請やでっち上げ、あるいは道徳的強要を通して市民の金銭を搾取することにあります。

（背後にある）「秘密結社」としての側面は、非常に厳格かつマフィアのようなヒエラルキーを持ち、秘匿、隠ぺい、盲信、カリスマ的な表現や偽善の上に成り立っています。この人知れぬネットワークが網羅するさまざまな分野の中には、官僚、アカデミア、司法、警察、軍部にまで及びます。フェトの首謀者は、織り交ぜられた円を描くように構成された複雑なこの組織の中心に位置し、「世界のイマーム」を自称しています。

トップダウン型に組織されたフェトには、メンバーに何かがあった場合の用心として横どうしのつながりも作ってあります。3人から5人が互いをいわゆる兄弟、姉妹と呼び、連結し合ってタコのように若者や高齢者、慈善家を取り込むのです。

秘密組織はコードネームを使い、自分たちの身元を隠すようメンバーに指示し、組織のメンバーなどではないかのように偽装させます。「どこへでも行けるように」という方針から、組織内では「予防措置」と呼ばれるこのやり方で、組織のメンバーは主に政府機関から市民社会、芸術、文学、スポーツといった分野のコミュニティにたやすく浸透していきました。社会からは完全に隠ぺいされ、嚴重に秘匿された形で活動にいそしむメンバーたちは、国家の中にもうひとつの国家構造を確立すること、国外勢力を統治に介入させ、（正統な）政府を転覆させることを目的としています。

フェトのもっとも基本的な性格とは何か

秘密裡の活動を行い、不透明な財源を有する監査不可能な構造が、とかくあらゆる種類の不正や疑わしい行為にはしりがちなのは明らかです。以下の根本的な特徴は、いかなる形であれフェトには信頼できる堅実な基盤のないことを示しています。

a) 組織の表向きの顔と裏の顔は、いずれもそれぞれの構成員からなる「セル構造」によって成り立っています。彼らどうしのコミュニケーションは、人々の共感を得やすく悪意を感じさせない「イマーム」「兄弟」「姉妹」といった呼び方をされるセルの代表者を通して行われます。セルとセルをつなぐ代表者は、「楽園の仲間」「慈悲の一撃」といった表現を用いて信奉者を動機付け、「共犯者」意識を持たせることで組織に対する彼らのコミットメントを確実なものにします。

b) 組織のメンバーには、その結果について問いを発したり考えたりすることなく命じられた通りに課題を実行することが重要になります。この組織は、宗教的な意味での「服従すること、従順であること」を誤認させ、アッラーに向けられるべきものを背信的なこのネットワークの首謀者に向けさせています。

この問題について、フェトの不誠実な首謀者の期待は非常に際立っています。

「忠誠心とは、物心両面における幸福感を犠牲に

不誠実なこの首謀者を、
非の打ちどころもなく
無謬であるとする主張が
信奉者たちの間に広まっている。
しかし預言者でもない者のことを、
罪なき者、過ちを犯すことのない者
とみなすのは、
首謀者に対する無条件の服従を
確保するための策略だ。

することを意味する。そのためには、理由を尋ねることなく示された目的に向かって歩かねばならない。この点で、もしあなたが忠実だというなら、

1. 願いごとや意見を問われたなら、必ず答えること。あるいは、おとなしく従うこと。
2. 目的に向かって歩いているとき、「入りなさい、ここは天国ですよ」と言われたら、「いいえ、相談して決めます」と答えること。
3. 「ここまで来れば、地獄を免れるでしょう」と言われても、「地獄を免れるのはすばらしいことですが、それでも相談して決めます」と答えること」。³

そうした絶対的な服従を確実なものとするために、フェトはあらゆる段階で信奉者に身体的・道徳的な強要をあたえます。組織内のランクや経験、収益化のスキルに応じ、献身的な人やだまされた人、あるいはすっかり洗脳された人など、すべてのメンバーが情報を駆使し、数十万の人員からなる大規模な労働力と活動力の流れを確保します。

c) 組織内には「指導者に罪はない」という考え方が広く行き渡っています。不誠実なこの首謀者が、非の打ちどころがなく、過ちを犯すことなどありえないという主張が、長年にわたり信奉者たちの間に広まって

3 Fasıldan Fasıla 1, Nil Yayınları, İzmir 1995, p. 180.

います。しかし私たちの宗教にしたがうなら、預言者たちを除いて誰も「イスマー」すなわち罪を免れる資格を持つ者はいません。預言者でもない者のことを、罪なき者、過ちを犯すことのない者とみなすのは、疑うことを知らない従順な者を確保するための策略です。抑圧などから人を解き放つというイスラームの一側面を傷つけ、人の良心と理解、判断力を奪ってただ盲信するだけの機械に変えておきながら、アッラーの単なるしもべに過ぎない人物の、さらにしもべになるよう唆すのに、純粹無垢であるかのような主張をすることは、イスラームとは一切関わりがありません。

d) フェトの重要な施設のひとつ「光の家」は、全ムスリムに向けて開かれてはおらず、その場所も隠されています。モスクにおける一体感から若者を切り離し、自分たちの施設に集めることで、この組織は「開かれた呼びかけ」を基本とするイスラームの構造を無効なものとしなしているのです。事実として、私たちの預言者がマッカで過ごした時期とは、イスラームの伝道が公開の場でなされていた時期です。イスラームの新たな伝道のためだと称し、マッカ時代を例にあげて情報の秘匿や違法行為、偽善などを正当化するのは受け入れがたいことです。

加えて預言者ムハンマド ﷺ は、彼自身が安全のために移住を余儀なくされた身近な期間も含め、いつ

でも、誰にとっても安心できる人物でした。嘘や欺瞞に基づいたやり方で伝教をしたことは決してありません。不正や抑圧を引き起こしたり、寄付を強制して人権を侵害したりすることはありませんでした。それどころか、彼は不正や違法に立ち向かい、いつでも抑圧され、犠牲にされた人々の味方でした。秘密主義に基づいて築かれた組織など、マドラサ（学舎）やダルガー（修道場）ではあらゆる人を受け入れるというアナトリアの知恵と知識の伝統とは正反対です。

e) アフル・アル＝スンナの本道からこの組織を分かちもつとも重大な逸脱とは、この組織が「タキーヤ」と呼ばれる行為を都合よく採用している点です。タキーヤとは「実体とは異なるように見せかける」というある種の偽善的なふるまいであり、フェトのメンバーが非合法な行為の際に用いる基礎的な戦術のひとつです。「目的を達成するためならあらゆる手段は正当化される」という考え方に支えられており、その結果、彼らは自然と嘘をつき、裏表の顔を使い分け、傲慢にふるまい、本音とはまったく正反対の言動や生き方をするなど、多くの非倫理的な行為を受け入れてしまいます。組織のメンバーは常に真意を隠し、目標を達成するためなら国境を越えて浸透し、「戦いとは不誠実なもの」⁴ というハディースを悪用することで正当化を

4 Bukhari, Jihad, 157.

図っています。

タキーヤについては、シーア派では認められていますが、アフル・アル＝スンナにおいては人命が脅かされ、危険にさらされている場合を除き禁じられています。戦時下での虚偽の許容についても、敵に対してのみ認められています。それ以外にムスリム同士が互いに嘘をついてだますことは決して許されていません。「だます者は私たちの仲間ではない」⁵と、預言者 ﷺ が明白に述べている通りです。

f) 謙虚さの仮面をかぶった傲慢な首謀者の影響下にあるこの組織は、その成り立ちからして彼ら以外のムスリムを、また宗教団体やコミュニティを見下し、排除する性質をもっています。卑劣なこの組織には、何であれ首謀者のすることには知恵と神の指示があるという考え方が深く根付いています。悪質な首謀者を神聖化する労力は、いつしか集団全体の傲慢さに変化してゆきました。組織のメンバーは、自分たちに同調する人々のことは誠実な信仰者とみなしますが、自分たちに従わない人々については良くて「ムアッラフ・アル＝クルブ（心を寄せ始めた者、ひいては慈善を必要としている者）」どまりであるとするなど、「信仰者は櫛の歯のように等しい」という宗教の原則に公然と反しています。

5 Muslim, Iman, 164.



この組織は、自分たち以外のムスリム、宗教団体、コミュニティを見下し、排除する構造をもつ。首謀者が何をしようと、その背後には知恵と神の指示があるという考え方が組織内に深く根付いており、その傲慢な行動は「信仰者は櫛の歯のように等しい」という宗教の原則に公然と反している。

フェトの首謀者は次のように発言しています。

「この賛辞は、世界の終末に近い時代に生き、アッラーを信じる信仰者すべてにあてはまるとはいえない。しかし預言者が世界の終末に宗教を守る特定のグループに対し、14世紀にわたり現れては消えていったすべてのグループを超えた特別な賛辞を与えているのは周知の事実である。この賛辞を受けるには特別な資格が必要なのだ。こうした重要な義務を担い、実践する宗教団体があれば、私たちの預言者は必ず相応の感謝を示し、手を差し伸べ、「預言者の挨拶」を送り届けるに違いない」。⁶

g) この組織は個人の判断や家族関係、子どもの教育、経済活動にいたるまで、個々のメンバーの公私にわたるすべての権利を管理下におくことを指向しています。圧力、愛情表現、暗示、人格否定などを通して認知を歪ませ、社会的なつながりを切断することでメンバーを洗脳してゆきます。メンバーの意識にグループへの適応性、指導者に対する無条件の服従、新しく異なる考え方の忌避、組織以外のムスリムとみなすことなどを植え付けるのです。

h) フェトは構成員が若いうちにアイデンティティの形成を妨げ、それにより連帯感や帰属意識を喪失させます。宗教教育のために家族から組織の学校に入

⁶ Zihin Harmanı – Prizma 7, p. 81-85.



組織に閉じ込められた若者たちは、
家族のことを、ライバルまたは敵と
さえみなさざるを得ないようにされ
る。親戚との関わりも断ち切られ、
組織の上下関係の中での結婚に縛
り付けられる。

学させられた若者は、最初に家族や親せき、次に故郷や国、そして最終的にあムスリムのウンマへの信頼と帰属意識を喪失させられることになります。繰り返し教え込まれた結果、もっとも重要な帰属意識を奪われた若者は、首謀者の命令だけを遂行するようプログラムされたイエスマンに変容します。組織に閉じ込められた若者たちは、家族のことを、ライバルまたは敵とさえみなさざるを得ないようにされてしまいます。親戚との関わりも断ち切られ、組織の上下関係の中での結婚に縛り付けられることになります。実際に、組織の首謀者はある説教の中で次のように述べています。

「アッラーとその使徒を信じる信仰者なら、自分に敵対する人々に打ち勝つ方法を知っている。たとえばそれが自分の父、兄弟、姉妹、おじや親せきであろうと」。その上、彼は多神教徒や非信仰者に対してとるべき態度について説いているムジャーディラ章 22 節を乱用し、「両親や兄弟の言うことに耳を貸す必要はない」とまで言い放っているのです。⁷

7 9 September 1977, Sultanahmet V. 2.

フェトは誰から何を搾取したのか

イスラームは、アッラーの崇高な意図と預言者ムハンマドとに人々を呼び招きます。アッラーの名と宗教的な動機を利用して利害関係を結ぼうとすることは、イスラームの教えに対する最大の侮辱にあたります。宗教の悪用とは、宗教的な概念を汚し、価値観を傷つけ、あらゆる方法でムスリムを欺き、搾取することなどを含む事象を指します。イスラームにおいて、人は自分の心と意志、そして自由を無条件に他人に差し出すことはできません。アッラーの御顔を除いて、人は誰であれ他人の、あるいは特定の集団の利益のために、自分の経済的機会や権限、社会的地位、時間、そして労働力を捧げることはできないのです。

こうした原則に反した行動によって、フェトは歴史上もっとも組織化された宗教の悪用の一例を実現しました。組織が悪用した価値観や概念は以下のとおり要約できます。

a. フェトは全能のアッラーの御名、属性、

啓示を悪用する

組織の構成員は、彼らの首謀者が全能のアッラーと直接 話をしていると信じており、したがって彼の話す言葉は他の誰が話す言葉よりも優れていると考えています。1991年4月7日、イスタンブールのカルタルで行われた説教の中で、組織の首謀者は「忠誠」

を語るにあたり、アッラーの威力を以下のように公然と悪用しています。

「私は片手をもう一方の手に置いて、「これを私の友人の手とみなしてください、アッラーの使徒よ」と言った。この手を握る人は、アッラーの御手を握ったものとみなされる。ここに集まった人々は、アッラーの御手を握る決意ができているようだ」。

全能のアッラーと自分のいわゆる「近しさ」について語るのに、彼は以下のようにモラルに反する発言をしています。

「アルシュとクルスィーについては、問われぬ限り語りたいたいと思わない。それは主の純潔であると私はみなしている。近親者の下着について話さないのと同じで、アルシュとクルスィーについては一言も語りたいたいと思わない」。⁸

アッラーの名を用いただましの構図に注意するよう、クルアーンは「アッラーについて欺く者に、欺かれてはならない」⁹と告げています。クルアーンに記されている通り、アッラーはマルヤムに、また預言者ムーサーの母に、それから弟子たち、啓示や靈感によるメッセージを与えました。¹⁰ 全能のアッラーが、預言者たちな

8 Fasıldan Fasıla 1, Nil Yayınları, İzmir 1995, p. 45.

9 Luqman, 31:33.

10 Al-i 'Imran, 3:42-54; Ma'idah, 5:111; Ta-Ha, 20:37-39; Shura, 42:51.

らびに上述の者たち以外と話すことは不可能であり、起こりえないことです。

b. フェトは聖クルアーンの章句や意味を悪用する

1990年6月3日、エルズルムで行われた説教の場で、錯乱した首謀者が興奮状態になり集まった人々に向けてクルアーンを投げつけ、「クルアーンを読み！アッラーの使徒を見よ！」と叫びました。

1991年3月31日、イスタンブールのペンディックで行われた「聖なるものの地平」と題された説教では、彼は聖なるものとは私たちの預言者とその教友たちのことであると述べ、その上で「第二の聖なるもの」と呼ばれる集団について触れ、彼らは世界の終末が近づいたころに出現するだろうと発言しました。そして自分の信奉者たちを「聖なるもの」という表現を用いて称賛し、彼ら「聖なるもの」がアッラーの証言者であることの証として以下の章句を引用しました。

「[真理を]拒む者たちは言う。『あなたは[主の]使徒ではない』。言いなさい。『私とあなたがたのあいだの証言者は、アッラーと、啓典の知識を備えた者があれば十分である』」。¹¹

このテロ組織の首謀者は、「マルヤムを訪れた精霊とは預言者ムハンマドのことである」といった、度を越した主張をしています。実際のマルヤム章17節は

¹¹ Ra'd, 13:43.

以下の通りです。「彼女〔マルヤム〕は、彼らから〔自分を〕隔てるための幕をはった。それからわれらは、彼女に、われらからの天使〔ジブリール〕を遣わした。彼は均整のとれたひとりの男の姿をとって彼女の前に現れた」。この危険な組織の首謀者は、この章句を以下のように利用しました。

「精霊（註：上記の訳では「天使」のこと）」とは何か。大多数のクルアーン解釈では、この章句は「彼女に、われらからの天使〔ジブリール〕を遣わした」ものとされている。しかしクルアーンで用いられている語は「ルーフ（精神、霊、魂などの意）」である。そして精神や魂の定義には議論の余地があり、可能性の限界は議論の枠組みを超えている。実際、それは預言者ムハンマドの魂を含むことも可能なほど広大なのだ。そう、それも可能なのだ。マルヤムは無垢で貞淑な女性だった。彼女が、誰か男性のことを考えるはずもない。もちろん、考えるべきでもない。彼女に会うことができたのは、合法的な男性のみである。その男性とは、預言者ムハンマド以外の何ものでもない。事実として彼は、マルヤムは自分と婚姻関係にあったと語ったことがある。こうした理由から、この「精霊」とは預言者ムハンマドの魂であったといえるだろう」。¹²

同時に、イスラーム学者たちはこの章句での「精霊」

12 11 Fikir Atlası, p. 59.

をジブリールと解釈しています。さらにこの語についてはアーリ・イムラーン章 45 節に説明されているとおり、預言者イーサー（イエス）の吉報を伝えたのは天使ジブリールであると告げられています。また、クルアーンの複数の明白な章句にしたがうなら、預言者イーサーが父親なくして誕生したことは周知の事実です。

c. フェトは預言者ムハンマドのハディースと

精神的なアイデンティティを悪用している

宗教を売り物にする組織の首謀者は、預言者に対するムスリムの愛情を搾取しています。預言者ムハンマドがイズミールを訪れ、説教の間じゅう人々の中を歩き、見回りをしている、と自らの説教の中でたびたび発言し、アッラーの使徒の権威を利用しようとしています。例として 1979 年 7 月 9 日の説教において、彼は次のように発言しています。

「純粋で目覚めた心を持つ人なら、眠りの中で、あるいはまどろみの中で、世界の至宝たる預言者が『私はイズミールに行こう、そこで見回りをしよう』と言うのを百回は聞いたことがあるだろう。『アナトリアに私を必要とする人々がいる。私はそこへ行こう』と言うのを聞いたことがある人もいるだろう。彼はあなたのモスクへやってきて、若い者がアッラーの前にひれ伏しているかを見ている。老いた者の愛の情熱はどのく

らいかを見ている。自分のウンマが成熟したかどうかを見ている」。

フェトの首謀者は、自分は預言者ムハンマドと頻繁に会って相談をし、指示を受けていると主張しています。そしてそれをハディースと詐称し、悪びれもせず自分の説教の中で引用しています。宗教を売り物にして悔い改めることを知らないこの人物は、次のように発言しています。

「アッラーは私にこう告げた。『確かに、われはムハンマドのために世界を創造した。しかし世界を持続させているのは、おまえのために他ならない。……』」。

預言者を利用するという点でもっとも顕著な例として、組織が所有するテレビ局で放映された“Şefkat Tepe”というTVドラマのワンシーンがあります。預言者が発光体のようになり、トラックの荷台に乗り込むという描写です。どのような目的であろうと、イスラームにおいては預言者ムハンマドを象徴させるための肖像画や細密画を制作することは許されていません。そのような像は法においても罪であるばかりか、道德の観点からも重大な侵害です。

d. フェトは教友の生涯を悪用している

フェトの首謀者は自身の説教や著作の中で、預言者ムハンマドとその教友の関係について頻繁に言及しており、自身と信奉者の関係とも同一視しています。

フェトはイスラーム文化や
文明において
社会的に影響のある格式高い
概念を利用し、
「イマーム」「ホジャ」
「ジャマーア」「奉仕」「寛容」など、
それぞれに特別の価値がある
多くの概念を劣化させ、
私物化する。

信奉者たちを「第二の聖なるもの」と呼び、自身のことは預言者の地位になぞらえることに何の恥も感じていません。1990年6月3日、エルズルムで行われた説教の中で、「イスラームは奇妙なものとして始まり、また始まりのような奇妙なものに戻るだろう」¹³というハディースを引用し、自身の信奉者たちのことを奇妙なものの第二の集まりである、と主張しています。のちに彼は、預言者の片手はその教友の上に、もう一方の手は組織の構成員の上にあると述べ、よって預言者は組織の構成員を「教友」と呼んでいる、と主張しています。

1977年4月10日、「責任」と題された説教の中で、彼は次のように述べています

「アッラーは私たちと共にある。アッラーの使徒も私たちと共にある。天使たちの高貴な集団も、自らの存在をかけて努力するこのコミュニティを見守っている。アスハーフ・アル＝バドル（満月の仲間）のようだ。このコミュニティは消え去るか、さもなければ地上の人類の不幸な運命を変えるだろう。拍手喝采は天上からわき上がり、悲しげな天使たちも笑顔に変わるだろう」。

e. フェトは崇拜行為をゆがめ、悪用している

フェトは自分たちの利益のために、イスラームの印

13 Muslim, Iman, 232.

である崇拜行為における規定でさえ操作します。彼らは崇拜行為の意味を空虚なものにし、実践の方法を歪曲しています。例として一日に五回、一般に知られているとおりの方法で行われるべき礼拝も、適当な頃合いを見てまとめて行ったり、あるいは心に思い浮かべるか、あるいは後回しにしたりしてもよいというファトワが組織内に広く流布されています。同様にラマダン月の斎戒についても、別の適切な月に埋め合わせとして行うことが許可されています。彼らによれば、女性が頭部を覆うことはファルド（義務）ではありません。ムトア婚が、預言者ムハンマドによって終末の日に至るまで禁じられている¹⁴ことは明白に周知されていますが、組織の構成員の間ではいとも簡単に実践されています。

フェトはまた、人々の喜捨や慈善、クルバン（犠牲のための寄付）を窃取しました。善意の名において強引に集められた寄付を通して、人の崇拜と献身の心を搾取したのです。多くの人々が預言者の名においてクルバンのための寄付を求められたにもかかわらず、集まった寄付が、実際には組織の財政を援助するのに使われていたことが確認されています。組織内ではこれを慣例としていましたが、イスラームにおいて、このようなやり方には宗教的な根拠がありません。

14 Muslim, Nikah, 21.

これはまぎれもなくビドア（慣例のねつ造）です。

組織がその構成員から金銭を徴収し、喜捨と称して時には自発的に、時には威圧と脅迫によって多くの富裕層から経済的収入を得ていたことが知られています。脅迫や強要による喜捨の集金もそうですが、そうした金銭を不当な目的のために使っていることも、搾取という点では最たるものでしょう。記者の名目で集められた金銭は、クルアーンが示しているような用途ではなく、テレビ番組の制作、諸外国でのロビー活動、選挙運動、広報や接待、会合、旅費など、組織の利益のために非合法に使われていました。クルバンのために集められた資金が、よこしまな目的のために費やされたのです。困窮者や児童養護、学生のための奨学金など、慈善のために集められた金銭も、そのほとんどが本来の対象者に届いていません。

f. フェトはイスラームのコンセプトを悪用している

フェトは自分たちの利益のためにイスラーム文化や文明において、社会的に影響力のある格式の高い概念を利用し、「イマーム」「ホジャ」「ジャマーア」「奉仕」「寛容」など、それぞれに特別の価値がある多くの概念を劣化させ、私物化しています。組織のヒエラルキーや活動において頻繁に使用されてきたこうした概念は、時間の経過とともに意味が低俗化してゆき、修正されることなく定着してしまい、当初はイスラーム

の伝統に属していたはずが、組織に関連する用語として使われるようになってしまいました。結果としてこれらの概念はその価値を奪われ、人々からの信頼を失ったために使用がはばかれる事態となっています。

g. フェトは礼拝と呪詛を悪用している

フェトの首謀者が発する祈祷の言葉は聖なるものとみなされ、呪詛の言葉は恐怖と従順を呼び起こすものとして心に植え付けられます。12月17日以降に組織が開始した反政府運動においては、呪詛の言葉が攻撃の手段として用いられ、首謀者と組織全体が主体となり、呪詛の言葉を並べてムスリムに害悪を呼びかける会合が開かれていました。

しかしアッラーの使徒は、メッカの偶像崇拝者の侮辱と迫害に耐えられなくなった教友たちに呪詛を発するよう頼まれたときも、「私は呪詛のためではなく、慈悲のために遣わされた」と述べ、偶像崇拝者が導きを授かるようアッラーに祈りました。¹⁵ また預言者ムハンマド ﷺ は呪詛の言葉を発したことがなく、むしろ伝道のためにタイフを訪れ、ひどい扱いを受けた際にも人々に導きがあるよう祈ったと伝えられています。¹⁶ 預言者ムハンマド ﷺ はウンマに対し呪詛を発することを禁じましたが、生涯に一度だけ、偶像崇拝者の

¹⁵ Muslim, Birr, 85, 87.

¹⁶ Muslim, Jihad, 104.

迫害により拷問を受けた教友が殉教に至らしめられた際に、呪詛の言葉を発したことがあります。しかしこれをもって宗教上の兄弟姉妹に対し、集団的に呪詛の言葉を発する行為を展開するなどといったことがイスラームと関わりがあるはずがありません。

h. フェトは若者がイスラームに捧げる

エネルギーと情熱を悪用している

イスラームが主流の地域において、組織は知的な若者を取り込み、彼らの信仰や理想、可能性、願望などを搾取しています。組織の指導者たちはそら涙やエピソード、作り話や偽ものの奇跡などを駆使して若者の宗教感情を悪用するのです。

組織はいわゆる説教や助言に見せかけて若者に近づきます。自分は宗教に向き合っていると思い込まされた何千人もの若者たちが、二面性のある組織に取り込まれ、未来への夢や希望を打ち砕かれました。組織のよからぬ目的のために、知恵と知識に満ちたメヴラーナやユヌス・エムレといったアナトリアの著名な人物も躊躇なく利用して愛と慈悲のネットワークであるかのように装っていましたが、7月15日、実際には彼らが暴力と策謀の組織であったことが明らかになりました。

宗教に見せかけた教育活動を
権力と利益のネットワークにしたフェトは、
トルコだけではなく、中央アジア諸国から
アフリカ諸国にいたる多くの地域で
宗教を搾取することにより影響力を得た。



フェトの首謀者フェトフッラー・ギュレンによる イスラームに反する主張

フェトの首謀者は、イスラームの観点からは受け入れられない、一貫性もなく非秩序的で無節操な多くの発言をしています。彼の発言には、イスラームの信仰、崇拜、道德の諸規則には決してそぐわない多くの情報や逸脱した見解が暗に含まれています。信仰と美德を説くという名目で行われるその演説の中で、盗電、盗水は許されることなく、それを行った者は国民一人ひとりに許しを乞わなくてはならない¹⁷、という発言をしています。彼自身は試験問題の窃盗を通して国家の存在だけではなく次世代の未来に対する窃盗を助長しています。

以下、悪辣な首謀者の宗教に対する歪んだ理解と、彼の音声記録、映像、および著書からその逸脱した主張を抜粋します。

a. 現世でアッラーを見たという主張

禁じられたことを避けるという傾向は、やがてそれゆえ自分にはアッラーを見る能力があるという主張につながってゆきました。アッラーを見る彼の能力は、来世のみならず現世においても発揮されるといいます。¹⁸

17 16 Fasıldan Fasıla-1, p. 280.

18 Yol Mülâhazaları, Nil Yayınları, İzmir 2008, p. 80.

アッラーは、夢や、純粋な心にもたらされる「催眠状態」を通して祝福を受け、主に預言者、教友たち、アウリヤー（「神の友」とされるいわゆる聖者たち）、ムカッラビーン（アッラーに近い者）との邂逅をもたらします。¹⁹

ほぼ毎日、あらゆる瞬間にアッラーと会っているという主張は、ギュレンの病的な精神世界をもっとも支離滅裂なかたちで反映するものです。クルアーンによれば、全能のアッラーは預言者を通してのみ人々とコミュニケーションをとっています。主と人々とのコミュニケーションの手段は、ただ啓示のみです。最後の啓示を受け取ったのは、最後の預言者ムハンマド ﷺ です。預言者ムハンマド以降、預言者が遣わされることはありません。そのため、アッラーと話した、現世にいながらにしてアッラーを自分の目で見たと、自分はアッラーの指示の下にある、などといった主張は誰にもできません。

b. 預言者と常時共にいるという主張

……冒頭で暗にふれたことについて、今はっきりと伝えておこう。私たちはマスジドに来て、礼拝を行った。多くの人がマスジドに詰めかけている、と誰かが言った。私も同じように歩いていた。マーフィル（宗教的な集会）のような場の階段をのぼっていると、預

19 Prizma 1, Zaman Gazetesi Yayınları, İstanbul 1997, p. 205.

言者が私たちの集まりを称賛していると告げられた。彼はミフラーブに近づくと、マスジドのイマームに説教をするよう頼んだ。イマームは、「アッラーの使徒よ、あなたがここにいるというのに、どうして私が説教などできるでしょう」と答えた。すると彼はミフラーブの前に座り、私たちに敬意を示した。その場にいた人々の歓喜は最高潮に達した。²⁰

預言者に自己紹介をしたとき、私の表明は別個のアイデンティティを得た。あなたがたの前での私の発言が別個のアイデンティティを得たとしても、私は決してその相違を忘れないだろう。ラスール・アル＝アクラム（慈悲の使徒、預言者のこと）が、私のナフスの名において私の額に接吻しようと、私はそれを私のナフスと、クルアーンと宗教のために奉仕する者たちとの名において受けるだろう。あなたの方の前では、私などアスハーブ・アル＝カハフ（洞窟の仲間）の飼い犬キトミールに過ぎないことを、私は決して忘れたことはない…主は私を、その息によって人類をよみがえらせる救世主のロバにした。私はこのことを光栄に思っているし、このおかげで天国に入れたならと願っている。²¹

20 19 9 July 1979 Berat Gecesi İzmir-Hisar Camii, min. 57:33.

21 20 Hutbeler 1 – (6 October 1978) Namaz 8, min. 16 onwards.

c. 天使やジンたちに会ったという主張

……毎日、ジンと会っていると言っても嘘ではない。あなた方の中にも、そうした人が 1,000 人くらいはいるはずだ。たくさんの人が、天使たちと会っていると言っても嘘ではない。このような信仰者のコミュニティではふつうのことだ。預言者 ﷺ の魂と、何度も会っているという人がいても嘘ではない²²。……

ガイブ（不可視）の領域にある目には見えない存在とコミュニケーションがとれる、という主張は、恐怖と尊敬を通して人を支配下におくためのメソッドであり、首謀者だけではなく、組織の運営に関わっていた多くの上位者が用いています。

d. イスラームにおける歴史上の偉人に

会ったという主張

……私が目にしたことをあなた方と共有したい。モスクの説教壇でこの種の話をつかち合うことになるとは思わなかったが、あなた方のためにも、天と預言者の賛辞を隠してはおけなかったのだ。キトミールも、強いてそうさせない限り寝ずの番はしないだろう……何が起こったのかを私が話すのも、そんなふうに強いられてのことである。私の友人たちが、学校や大学を設立するための土地を購入、一緒にその土地を見に来るようにと頼まれた。ゴツゴツした、岩場の多い

22 Giriş, Tebliğde Gaye ve Metot, min. 04:50.

土地だった。誰かが、茂みの中に座っていた。光り輝く人々だった。彼らに近づき、一緒に座ることにした。彼らの傍に行き、私は許可を求めた。「あなたはどなたですか」と尋ねると、答えたのはタビーウンの師ハサン・アル＝バスリーだった。アル＝ヌウマン・イブン・サービト・アブー・ハニーファがいた。ジャラルルッディーン・ルーミーもいた。さまざまな時代の偉人が集まり、彼らは精神世界であなた方が設立する大学の見取り図を描いていた……彼らのような重要なイマームたちを目にして、私は特にこのことについてあなた方に注意を払ってもらいたい。あなた方の奉仕のあり方、新たな復活におけるあなた方のあり方を完成させるために、この集まりをハサン・アル＝バスリーからマウラーナへと伸びる系譜につなぐことが非常に重要なのだ。私は勇気を出して再び尋ねた。「私たちの奉仕についてどう思われますか」。代弁者であるハサン・アル＝バスリーが答えてくださったのだが、良く聞いてほしい。彼はこう答えた、「あなた方の奉仕は、教友たちと何ら変わるところがない！」²³……

この危険な組織の首謀者は、歴史、文明、偉人に対する人々の敬意を好機として利用し、彼も、また彼の信奉者たちも、夢の中や半覚醒状態で主に教友たち、次いでイスラーム史上の著名な偉人たちに会っ

23 İman ve Aksiyon-1, min. 28:47 onwards.

たと主張しています。自分が組織した営利目的のネットワークが知識と知恵で知られる人々の訪問先となっている、自分たちの活動はイスラームの偉人たちに支持されている、などと言いだすのは大それた中傷です。

e. ガイブの報せをもたらすという主張

……今年ハッジのためにマッカへ行った。アラファトの丘で眠っていると、緑の衣服をまとった二人が空から降臨し、話し始めた。私は彼らの話をこっそりと聞いた。一人が、もう一人に尋ねた。「今年のハッジには、何人が訪れているのか」。もう一人が答えた。「60万人が来ている」。すると一人が、また尋ねた。「そのうち何人のハッジを、アッラーは崇拝として受け入れたのか」。もう一人が答えた。「アッラーが受け入れたのは、たった6人だけだ²⁴」。……

組織の首謀者は、文字・数字には神秘があると主張し、章句に示される特定の表現から様々な日付を推測することで未来に関する予言を行っています。自分がガイブ（不可視の領域）についての知識を持っている、すなわち意識や感覚では認識できない不可視の世界や未来についての情報を持っている、と主張することは明らかな逸脱にあたります。クルアーンに従うなら、ガイブを知るのはただアッラーのみである

24 Sesli Vaazlar 5, Hac-1, 20 October 1978, min. 49:50 onwards.

からです²⁵。アッラーから知識を与えられた預言者たちの他に、ガイブの情報を知らせることができる者はいません。

f. 夢を媒介とした偽情報

……例えば夢の中で、将来の業績を予見したり、受ける予定の試験の問題の詳細を見ることができたりする人もいる²⁶。

彼からの賛辞ひとつのために、すべての魂が犠牲となった。私はある種の人々を見てきた……そのうちの一人は、夢の中で預言者が走り寄ってきて手を伸ばし、自分を愛撫するのを見た。私はそのためだけに、狂った者のように持てるものすべてを放棄し続けている！²⁷……

……1978年ごろのことだ。洗濯物がたまっていた。夕方、洗濯をしているとうんざりしてきた。ふと「結婚でもしようか」と思った。考えるというほどの長い間でもなく、一瞬、そのようなひらめきがよぎっただけだった。翌日、友人が私のところへやってきて言った。「昨晚、夢で預言者を見た。きみにサラームを告げてから、きみが結婚する日はきみが死ぬ日だ、自分はきみの葬式には参列しない、と言っていた」。ただの夢だ。夢

25 An'am, 6:59; Hud, 11:123.

26 Gençlere Pırlanta Ölçüler-6, Fasıldan Fasıla, Muştu Yayınları, 2011, p. 120.

27 Sevgi Sultanı, min. 42:40.

に従って行動するなど、正しいことではないと分かっているが、この兆しに敬意を払うようつとめてきた²⁸。

.....

組織の首謀者は召命不可能な夢、神秘的な物語、そら涙やイスラームの知識に関する正確な典拠以外の教え込みに基づいた言説を使用します。罪なき人々を欺いて洗脳し、精神を蝕み、夢の中での「会合」を通して預言者から命令と指示を受けた、と主張します。夢を通した「会合」というフィクションは、組織の構成員に対する影響力を強化し、かつ構成員にいわゆる精神的な喜悦をもたらすのに繰り返し集会の中で使用されてきました。

実際のところ、クルアーンとスンナに矛盾する夢には何の価値也没有し、さらにクルアーンとスンナに矛盾しない夢であろうと、宗教的には何の拘束力也没有し。学者たちによると、それはたとえ夢を見た本人にとりセンシティブな内容であろうと、夢はムスリムの行動や物事を決定する要因とはみなされないためです。また、実際に見てもいない夢を見たと言明することは、「最大の嘘」であると預言者 ﷺ は述べています²⁹。

28 Küçük Dünyam, p. 63.

29 Bukhari, Tabir, 45.

g. 宗教間対話プロジェクト

……十字軍によるあなた方の国の侵略は、それほど危険なことではない。なぜならあなた方と彼らの間には越えられない一線があるからだ。実際、彼らはあなたがたの女性や娘たちには触れない。彼らは、あなたがたにとって聖なるものには触れない。以前にも、そうはしなかった³⁰。……

西洋社会の関心と支持を得るためにフェトが行ったもっとも不審な挙動が、「宗教間対話」「穏健なイスラーム」という触れ込みです。このアプローチは、ムスリムに対して国際的になされた陰鬱な図式の一部をなしています。この搾取のネットワークは、他宗教の信仰者に自分たちを友好的にみせ、物質的な利益を得るためならイスラームの基本原則のいくつかを妥協してまで、何年にもわたり誘導を続けてきました。ムスリムになるにはカリマ・シャハーダの最初の部分である「ラー・イラーハ・イッラッラー」を唱えるだけで十分であり、預言者ムハンマドの預言者性を信じない人々も楽園に入るとさえ言い出すほどです。宗教間対話のプロセスにおいてカリマ・シャハーダの全体性が故意に損なわれ、最初の部分だけを強調することにより、「ムハンマドゥ・ラスール・ッラー」の部分が除去されているのが分かります。

30 (20 August 2016)

フェトの首謀者は、キリスト教の権威者集団に友好的に見せようと、次のように述べています。「誰かがやってきて、『私はキリスト教をやめます、キリスト教には何の価値也没有せん』と言ったとしましょう。私なら、こう答えます。『どうしたのですか、今の今までキリスト者だったのでしょうか。やめたくなるほど悪い何かを見たとしてもいうのですか』。その人は、きっともっと研究し、もっと調べ、もっと学び、そうすることでより良い方向へ導かれるでしょう。これが私の話し方であり、対話の始め方です³¹。」

フェトの首謀者はまた、こうしたやり方が自分自身の利益に及ぶかもしれないとまで語っています。

……目的のために、おそらく私たちは何千回となく騙されるだろう。蛍のために何千回となく詩を書くだろう。鳴鐘人に何千回となく慈悲をかけ、バプテスマの水を不老不死の薬のように飲み干すだろう³²。……

フェトの首謀者は、1998年2月9日にローマ教皇に個人的に宛てた手紙の中で次のように述べています。「私たちは、ローマ教皇パウロ六世閣下が設立した教皇庁諸宗教対話評議会による進行中の使命の一部となるためにここにあります。この使命の実現に期待しています。もっとも低く、もっとも非力ではありま

31 14-Sesli sohbetler-1 / Bamteli 01-10 (Gurbet Solukları)
Bam Teli 6/2, min. 10 onwards.

32 Çağ ve Nesil 1, p. 26.

すが、閣下の非常に価値の高い奉仕の実践にあたり、ささやかなりとも支援させていただきたく存じます」。

アッラーの御前において、イスラームが真の宗教であることは疑う余地ありません。宗教の自由を損ねることなく、他宗教の人々と平和に暮らすことは不可欠であり、人類にとり有益なあらゆる事柄において、共通のプラットフォームで相互扶助と連帯を保つことが可能です。しかし、対話の名の下に、すべての宗教の神学を共有したり、宗教文化を統一したりする試みは、いかなる形であつても受け入れられるものではありません。

キリスト者のコミュニティに対しては大きな寛容を示し、宗教間対話の取り組みにおいては彼らと緊密な関係を築いていながら、自分たちの組織に参加しないムスリムに対しては冷たく、軽蔑的で疎外的な立場をとっていることを忘れてはいけません。アル＝ファトフ章 29 節とはまったく逆に、「互い同士に対しては揺るがず、拒む者には慈悲深い」とでも要約できるだろう彼らの態度には、団結の意識が完全に欠落しています。フェトは、イスラーム団体との誠実な対話を避け、キリスト教団体との親密な関係と誠実な対話も持ちつつ、宗教上の同胞とは常に距離を置いています。

フェトフッラージュや類似する搾取組織に どう立ち向かうべきか

- ・ 何よりも7月15日に発生したクーデター未遂という背信行為が示しているのは、宗教の悪用はテロリズムに向かうということ、そしてアッラーと郷土への愛に満ちた心に勝る力はないということです。私たちの社会を破壊し、その中で共に暮らす人々を脅かし、ムスリムのウンマへの希望を踏みにじることを目的とする者には、恥辱と不名誉が課されます。全能のアッラーの恩寵と救済は、抑圧された者、犠牲にされた者、助けを求めて逃げてきた者の側にあることを、常に忘れないようにしましょう。
- ・ この苦い経験は、私利私欲のために神聖な価値を悪用する人物やグループに対しては警戒するよう、説得力をもって私たちに促しています。分離主義者たちは民族、宗派、あるいは政治的主張の違いを強調することで社会を扇動し、退廃させるために不和を高め、反社会的運動を展開します。彼らに対しては、心においても拳においても一致団結してあたらなくてはなりません。大いなる災厄から私たちを救ってくださった全能の主への

感謝を絶やさないようにしましょう。感謝によって主の加護を求め、団結と誠実さを保つようにしましょう。

- ・ 私たちの崇高な宗教には、「一文字さえも変更されていない」啓典があります。クルアーンは最後の聖典であり、これ以降、全能のアッラーはどのような形態の啓示も下しません。この崇高な宗教には、「最高の模範」である預言者がいます。彼以外の人物が、自分は罪も過誤も犯さないと主張し、彼にとって代わろうとすることは許されません。私たちはみな、アッラーから授かった意志と心を持っています。私たちムスリムには、宗教的な教義不変の原則、そして14世紀にわたる確かな経験があります。ムスリムとしてこれらすべてをなおざりにし、自分の意識、理性、そして良心を、他人や何かしらのグループに明け渡してはならないことを忘れないようにしましょう。
- ・ イスラームは、知識と知恵、そして思考を用いることの重要性を強調し、探究心を持つことの必要性を教え、存在の領域と啓示された章句について熟考するよう勧める宗教です。特定のイデオロギーに盲目的に服従するよう呼びかける集団に対

しては、常にこのイスラームの原則を胸にとどめておくようにしましょう。

- ・ イスラームの基本原則としての穏健さとウンマのあり方に即したスーフィー運動は、私たちの思想と文明の世界に確立された知識と知恵の学派であり、善良な道徳や礼儀作法、美的感覚や人道意識を高める存在です。クルアーンとスンナによって定められた限度を超えたり、私たちの伝統的な価値観の基盤を傷つけたりしない限り、宗教的・科学的活動や慈善活動を行う多種多様な集団は私たちの豊かさを示すものです。しかし、そのような集団は透明性があり、管理が可能で、説明責任を有し、自分たちの利益ではなく社会全体と人類に奉仕するためだけに存在すべきであることに、常に注意しておく必要があります。神秘的な表現でイスラームの言説を装飾し、崇拜行為に対する人々の愛着を利用して利益を得ようとする組織を信用しないようにしましょう。カラーマ、夢判断、靈感や物語などを通して宗教を分裂させようとする人々が、実際に深く根差したアナトリアの知恵を傷つけようとしている事実を見過ごしてはなりません。

- ・ 宗教は誠実さがすべてです。誠実であろうとするなら、アッラーへの奉仕の義務は、世俗的な目標や野心、権力を得るためではなく、アッラーのご承認を得るためにのみ果たすべきでしょう。一握りのムスリムのことを「選ばれた」者であり他のムスリムとは異なると信じ、自分のコミュニティを「選ばれたコミュニティ」とみなし、他のムスリム・コミュニティよりもすぐれていると考えているとしたら、その人は明らかに道を誤っています。キブラに向かうすべてのムスリムはあらゆる違いを超えた同胞であることを忘れないようにしましょう。
- ・ 何かしらの業務に誰かを選任・配属する際には、「公正、信頼、能力、適正」というイスラームの基本的な原則に従いましょう。自分や知人にとり有利だからといって、適格ではない人物に仕事や職位を紹介するなどの便宜を図ることのないようにしましょう。特定の宗派やイデオロギー、地域、民族への帰属を、適切であるか・協調性があるかといった観点ではなく、好みの問題として理解することのないようにしましょう。試験問題の窃盗をはじめ、詐欺や不正行為、恐喝、脅迫など、法と道徳に反する行動を防ぎましょう。

- ・ 正しく有益な宗教的知識を社会全体で共有することによってのみ、宗教の悪用に基づいて構築されたグループの伸張を防止できるようになります。クルアーンとスンナに基づく宗教教育や道徳的・精神的教育に関しては決して妥協しないようにしましょう。本物の宗教的知識を社会に普及させるには、広範囲にわたる注意深い忍耐を必要とする努力が必要です。クルアーンとスンナの道を歩み、ウンマの合意なき新たな解釈や運動にも対抗できる、中庸で知識も豊富な世代を育てるために全力を尽くしましょう。
- ・ 宗教を悪用する組織は、自己肯定感、自由な思考、個性や個人としての人格が日常的に奪われた状態の若者の集団を作ろうとします。子どもたちが、法的に問題のない環境で育てられているかに注意を払いましょう。就学前の教育から始め、アッラーの良いしもべとなれるよう、すこやかな人格、価値観、道徳を持てるよう見守りましょう。誰に預けるのか、誰と友達なのか、どこで過ごし、何を読み、インターネットやソーシャルメディアを通してどのようなネットワークとつながっているのかに関心を持ちましょう。愛情や気配り、指導が与えられなかった若者ほど、歪んだ宗教的知識に引

き寄せられてしまうリスクが高いことを忘れてはなりません。

- ・ イスラームはすべてのムスリムに対し、他宗教の信仰者と確かな人間関係を築いて平和に暮らすことを義務として課しています。しかしこうした人間的なあり方を利用し、イスラームと他宗教を同一の鍋で煮溶かし、ハイブリッドな宗教の作成を目指す「宗教間対話」の取り組みは、信仰なき新たな世代を生み出す政治的・イデオロギー的な罠でしかありません。社会においてあらゆる宗教の信徒と良好な関係にあるべきことに注意しつつ、イスラームが最後の真の宗教であり、ムハンマドが最後の真の預言者であるという信仰を毀損しようとするのは、善意とは程遠いことを知っておきましょう。
- ・ 宗教の悪用に対しては、寛容を示す必要はありません。私たちの社会全体の存続と未来のために、また社会全体の平安と安寧のために、方向性を間違えることなく、誤情報や偽情報を排除し、細心の注意を払い、献身的な行動をもって戦いましょう。だますことも、だまされることもあってはなりません。一般市民、知識人、宗教者、文筆家、

芸術家、研究者が一丸となり、それぞれの立場から宗教が正しく理解され、真に活かされることが求められています。